

資料－１

第２回 プロセス運営委員会（H27. 8. 21）の主な意見とその対応について

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民会議参加者の年代、性別、地域等属性にアンバランス感があるが、どのような対応を考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の年齢構成、地域間のバランスを考え、29歳以下の若年層と本島中部地域にお住まいの方を対象に、参加者を追加募集した。 ・ この結果、新たに9名が加わり、参加者属性の改善につながった。（別紙1～2）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意見の概要で、コミュニケーションにおける情報提供に関して「青少年、子育て世代など幅広い年齢・属性の意見の把握」とあるが、何らかの対応を考えているのか。 ・ 県民意見の把握にあたり、関心の強い方に対して、情報提供だけではなく、関連する知識を学べる場も少し提供した方が、様々な面から考えることができ、判断しやすくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な方の意見を把握するため、出前講座を行っている。これまでも、名桜大学、経済同友会、糸満市の自治会等で実施しており、今後も引き続き取り組んでいく。 ・ 出前講座開催に際しては、参加者の要望に応じた内容を提供できるよう資料を工夫する等取り組んでいきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民が具体的なイメージを持てるようにするため、「ゆいレールやつくばエクスプレスの整備、富山市のまちづくり」の事例なども参考資料として紹介するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域の事例等については今後も収集し、整理した上で県民に提供していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄鉄軌道のホームページにおいて、現在の取組状況は、委員会資料のなかで公開しているため、わかりにくい。県民の方がアクセスしやすいよう掲載の方法を工夫した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページのトップページに情報を一覧にして掲載し、知りたい情報にアクセスしやすくするようリニューアルした。（別紙3）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画案策定に関する3つの委員会（計画、技術、プロセス）の役割や全体的な関連性が十分浸透していないので、新聞等で用語の解説も含めてわかりやすく情報提供するよう検討してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞社の協力により、3つの委員会を解説する報道があった。（別紙4） ・ 3つの委員会の役割や議論の内容がわかるように、ホームページサイトをリニューアルした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民意見では、鉄軌道整備による2次的、3次的な効果にも関心があると見られるため、副次的な効果に関する情報を技術検討委員会で検討してもらい、県民に情報提供してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、他地域の事例から、鉄軌道整備によるまちづくり効果や観光産業への経済効果等について整理する。

あなたの意見が
沖縄の未来をつくる!

急募

沖縄鉄軌道 県民会議 参加者追加募集!!

ご応募を
お待ちしております!



- | | |
|------|--|
| 募集人数 | 若干名 ①18歳以上～29歳以下(北・中・南部にお住まいの方)
②30歳以上(中部にお住まいの方※読谷・うるま以南、宜野湾・西原以北) |
| 任期 | 平成28年3月31日まで |
| 開催回数 | 年2回程度(1回あたり3時間を予定) 次回開催は11月以降を予定 |
| 応募資格 | ①沖縄本島内在住
②満18歳以上(高校生を除く) ③国家公務員及び地方公務員を除く |
| その他 | 交通費のみ支給(県規程) |

※ご応募は裏面の申込書を持参、郵送、FAX、または電子メールのいずれかの方法により提出して下さい。※選考は、書類審査後、抽選により決定します。

受付期間:平成27年10月30日(金)まで

提出先/問合せ先 沖縄県企画部交通政策課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 ☎098-866-2045 ☎098-866-2448

E-mail:aa015500@pref.okinawa.lg.jp(課代表)

※詳細は ホームページをご覧ください。ご不明な点があれば、上記までお問い合わせ下さい。

沖縄県 交通政策課 検索

県民会議参加者 応募状況				
年齢	地区	当初 応募者	追加 応募者	応募者 計
29才以下	北部	3	0	3
	中部	1	4	5
	南部	4	2	6
		8	6	14
30才以上	北部	11	0	11
	中部	3	3	6
	南部	16	0	16
		30	3	33
計	北部	14	0	14
	中部	4	7	11
	南部	20	2	22
		38	9	47



沖縄 鉄軌道 計画案づくり

沖縄鉄軌道計画案づくりに関して、
専用ホームページを開設しております。是非ともご覧下さい！

▶ サイトマップ

▶ ご意見・お問い合わせ

| 計画案づくりの進め方 | 検討委員会について | コミュニケーション活動 | 計画案づくりの進捗状況 | 頂いたご意見の公表 |

HP上部に知りたい情報にアクセスしやすいように、ナビゲーションを設置。



- コミュニケーション活動について
- おきなわ鉄軌道ニュース
- パネル展、オープンハウス
- 県民会議
- 市町村会議
- 関係機関等意見交換会

例えば、コミュニケーション活動にマウスを合わせると、さらに詳しい情報を自動表示。



話題性のあるホットな情報に関しては、アイコンを設置しアクセスしやすくなるよう工夫。

お知らせ・ニュース

お知らせ一覧

- 鉄軌道news** 2015.12.9 「おきなわ鉄軌道ニュース特別号」を掲載いたしました
- お知らせ** 2015.11.26 【開催のお知らせ】沖縄鉄軌道計画検討委員会及びプロセス運営委員会
- お知らせ** 2015.10.30 【開催のお知らせ】沖縄鉄軌道技術検討委員会
- 鉄軌道news** 2015.10.22 おきなわ鉄軌道ニュース号外の発行
- 公開** 2015.10.13 頂いたご意見の公表（ステップ2掲載）

- ▶ 計画案づくりの進め方
- ▶ 検討委員会について
 - 検討委員会について
 - 計画検討委員会
 - 技術検討委員会
 - プロセス運営委員会
 - プロセス検討委員会
- ▶ コミュニケーション活動
 - コミュニケーション活動について
 - [おきなわ鉄軌道ニュース](#)
 - パネル展、オープンハウス
 - 県民会議
 - 市町村会議
 - 関係機関等意見交換会
- ▶ 計画案づくりの進捗状況
- ▶ 頂いたご意見の公表

ホームページ下段にも知りたい情報にアクセスしやすくなるように、掲載情報を一覧にしたサイトマップを掲載。

待から分かる! ニュース深掘り



沖縄に鉄軌道計画

車依存社会脱却へ

「県が鉄軌道の導入を考えているって本当?」そもそも鉄軌道って何?

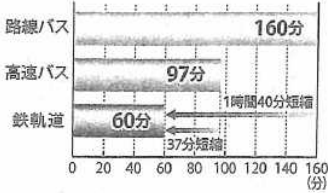
「本当だよ。県は、沖縄の将来像を描いた計画『21世紀ビジョン』の実現を目指して、いろんな取り組みをしているんだけど、その計画に鉄軌道など新たな交通手段の導入が盛り込まれているんだ。鉄軌道は電車やモノレール、路面電車などをまとめてそう呼ぶんだ」

「どうして必要なの?」

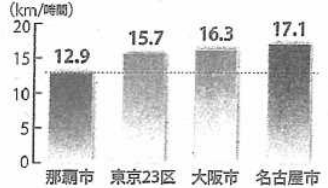
「沖縄は本土のような電車がなくて、車で移動する人が多い。車依存型社会といわれているよ。だから交通渋滞が激しいんだ。渋滞している時の那覇市の移動速度は時速12.9kmで、東京23区(15.7km)や大阪市(16.3km)、名古屋(17.1km)などの大都市よりも遅いんだ。それに、中南部と比べて人口が少ない北部の発展や、沖縄の経済を支える観光面でも、鉄軌道の導入は必要と考えられているんだ」

「最近、よへん委員会のニュースが仕分けの回を話し合っているの?」
「県は、鉄軌道導入に向けた計画をすすめるため、専門家を集めて3つの委員会を開いているよ。①おきなわの県民委員会、②技術的・政策的検討委員会、③技術的・政策的検討委員会。①は交通・観光、経済など幅広い影響を総合的に視点を話し合う『計画検討委員会』」

那覇一名議の公共交通所要時間



車の混雑時の移動速度



「駅的位置やルートの議論は10月か、気になるね。県民にはよくやって情報が届くの?」

渋滞解消や北部発展を期待

「鉄軌道の情報は、県が広報誌を県内全戸に配っていて、第3号まで届いているはずだ。アンケートもやっていて、約5000人の回答があり、陸上交通の現状を改善するべきだとの意見が『72.7%』ある程度思う『22.4%』を合わせ、約95%に達したよ。今の交通に満足していない人が多いんだね。ではどうしたら便利になるのかな。それを考えるには県民の意見は大切で、県はホームページでも情報を公開しているよ」

「鉄軌道をつくるには相当な費用がかかると思うけど、どうなの?」
「実現性はあつたよ。」「県の試算では那覇一名議間に導入した場合、事業費は5600億円もするんだ。とても県だけではつくれる金額だね。だから、県は国に財政支援を求めているんだ。国も導入へ向けて調査はしているけど、整備費用に対して、導入による利益はまだ十分見通せなくて、事業化へのめどは立っていないよ。県は今つづけている計画が完成したら、国と具体的な調整をする予定なんだ」

「(政経部・大城大輔) 次回は第3日曜日掲載」

